

第 68 回山口大学医師会・山口大学医学部主催 医師教育講座（体験学習）

「癌の早期発見を目指した消化管内視鏡診療」

と き 平成 31 年 3 月 3 日（日）9：00～12：00

ところ 山口大学医学部総合研究棟 S1 講義室

山口大学医学部附属病院内視鏡室（上部・下部）

指導印象記

山口大学医学部附属病院消化器内科

岡本 健志

平成 31 年 3 月 3 日に山口大学医学部総合研究棟 S1 講義室にて、山口大学消化器内科（第一内科）が担当し、第 68 回山口大学医師会・山口大学医学部主催医師教育講座を開催させていただきました。胃癌、大腸癌は依然として部位別癌死亡の上位を占めており、予後の改善のためには早期発見が重要であることはいうまでもありません。そうした状況を踏まえ、今回のテーマは「癌の早期発見を目指した消化管内視鏡診療」とさせていただきました。講座の構成は前例に倣い、前半は座学、後半は体験学習という形にさせていただきました。

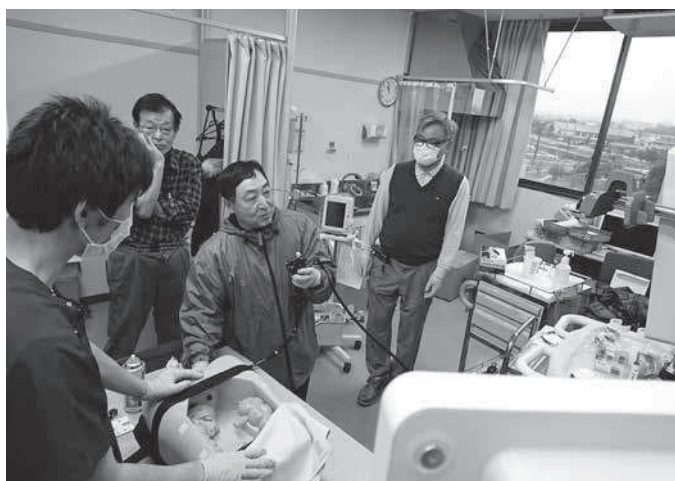
まず、前半は私が担当し「胃内視鏡検診時代の胃癌内視鏡診断」というテーマで講演をさせていただきました。内容としては、内視鏡検査に臨む際の心構え、上部消化管内視鏡の前処置法、上部消化管内視鏡写真撮像法、胃癌診断のコツ、ヘリ

コバクター・ピロリ未感染胃に生じる腫瘍の特徴、また近年、臨床的な有用性が多く報告されている特殊光・拡大内視鏡を用いた胃癌・食道癌診断、上部消化管内視鏡検査の際の咽喉頭観察など、多岐にわたりました。多くを盛り込みすぎたため、ややまとまりがなかったと反省しておりますが、受講者の専門領域もさまざまであったため、どこかに興味をもっていた部分があったのではないかと思います。

後半は体験学習として、モデルを用いた胃拡大内視鏡観察のトレーニングとコロンモデルを用いた大腸内視鏡挿入のトレーニングを行っていただきました。胃において拡大内視鏡で診断に耐えうる美しい画像を撮影するためには、通常の内視鏡では用いることがない特殊な操作が必要です。慣れないためか最初は皆さん悪戦苦闘しながら取り組まれていましたが、最終的にはその動きを習得されていました。また、大腸内視鏡挿入については受講者の中に大腸内視鏡のエキスパートの先生もいらしたため、指導者と受講者の間で

大腸内視鏡挿入法についてのディスカッションをしながら、和気藹々とした雰囲気の中、学習をしていただきました。

体験学習終了後、坂井田教授より閉会の挨拶があり、参加証をお渡しして終了いたしました。参加していただいた先生方には積極的に取り組んでいただき誠にありがとうございました。多少マニアックな内容であったかと思いますが、先生方の今後の診療の一助となりましたら幸いです。



指導印象記

宇部市医師会 栗栖 敏嘉

平成 31 年 3 月 3 日（日）、毎年恒例となりました山口大学医学部主催の医師教育講座が山口大学附属病院で開催されました。今回は「癌の早期発見を目指した消化管内視鏡診療」と題して第一内科が担当されました。

当日は小雨の降る中、坂井田 功 教授をはじめ第一内科の医局の先生方のご厚意により講演が開始されました。

残念に思われたことは下部内視鏡検査をご担当される予定の橋本真一 先生が、体調不良により休講となったことでした。今回参加された先生の人数は 8 名で、休日を返上してご準備していただいた大学の先生方には大変恐縮な思いでした。

私も大学を辞して 30 年余りになりますが、普段の診療では一人で検査診断をするため判断に迷うようなことも多く、このような機会を与えていただけたことを大変有難い思いで受講させていただきました。

講義の内容は、はじめに上部内視鏡検査の定型的な検査法と写真撮影の方法について解説され、改めて自分の検査順序や写真撮影方法と比較する良い機会となりました。

実際の診断では、白色光による診断と NBI：Narrow Band Imaging を用いた比較診断法での長短所をわかりやすく解説していただきました。さらには拡大内視鏡検査を利用して注目すべきポイントなども多くのスライドを交えて分かりやすく解説いただきました。

最近食道や胃だけでなく咽喉頭部の悪性腫瘍も多く確認されるようになり、日常診療でつい見過ごしてしまいがちになる可能性を考えると、改めて意識した、注意深い観察が必要であることを考慮し検査すべきと心得を新たにすることができました。

また、最近頻用される拡大内視鏡検査の実技も経験できましたが、われわれ開業医すべてが拡大内視鏡検査などができるとは限りません。そのような環境でも現在手持ちの器機を有効に利用する際

に、注意すべきポイントなどについても講義いただけたことは、今後の診療において有益なものとなりました。

内視鏡的な治療については、ESD：endoscopic submucosal dissection が広く行われていますが、その適応と手技についても多くのスライドと実例を供覧させていただき、有意義な時間となりました。

特に、個人的には下部咽頭から喉頭にかけての見方の説明を受けて、今後の診療ですぐに役立つ内容となりました。

一方、下部内視鏡診療についてはコロンモデルを用いての実技実習を一人が複数回、体験することができて普段、下部内視鏡検査をしていない者にとっては有意義な時間を過ごすことができました。

開業医は一人での検査となるため、とかく独りよがりな検査になっていないか？あるいは正しく検査診断ができているだろうかと考えさせられることがあります。

このような気がかりを払拭するためにも、今回のような機会が得られることは大変ありがたいことです。

今後もこのような機会が与えられるように切に希望して、今回の体験学習の受講印象記を終わります。

